

作成 令和4年12月22日

摂津市議会議員 松本暁彦

令和4年第4回定例会一般質問

～本会議3日目・令和4年12月20日～ 議事録(抜粋)

## 1 増加する救急出動数や火葬件数等と超過死等の状況について

### 質疑概要

昨年来、超過死亡が話題になっています。そこで関連性がある本市の救急搬送の状況、死亡者数、火葬状況を、今年度も含めた過去5年間の推移について確認し、その分析と市としての対応について質疑を行った。

### ○松本議員

1 増加する救急出動数や火葬件数等と超過死等の状況について、昨年来、超過死亡が話題になっています。今年9月16日に厚生労働省から、2021年の人口動態統計の確定数が公表され、昨年は、前年を67,101人上回る死亡数でありました。この数値は、東日本大震災のあった2011年で、前年を上回った死亡数が56,054人である事を踏まえ、衝撃的なものとして受け取られています。

本市での傾向は気になるところです。そこで関連性がある本市の救急搬送の状況、死亡者数、火葬状況を、今年度も含めた過去5年間の推移についてお聞かせください。

(略※)

### ○福住議長

消防長

### ○消防長

救急搬送の状況についてのご質問にお答えいたします。

まず、救急出場件数の推移についてでございますが、直近5年間をみますと、平成30年度に、本市消防本部発足以来、最多件数である5,160件を記録いたしました。

その後は、高い水準での件数ではありますが、令和元年度が4,976件、令和2年度が4,662件、令和3年度が4,854件で、緩やかではありますが減少傾向に転じておりました。

しかしながら、令和4年度につきましては、11月末現在までの8ヶ月の間で、すでに3,879件となっており、前年同月と比べまして大幅に増加しており、平成30年度の最多件数を確実に上回る状況となっております。

[想いを言葉に、言葉を形に、形から実践へ。]

## ○福住議長

生活環境部長

## ○生活環境部長

本市の死亡者数及び火葬状況についてのご質問にお答えいたします。

死亡者数につきましては、平成30年度712人、令和元年度764人、令和2年度767人、令和3年度886人、令和4年度は11月末時点で606人となっております。

火葬状況につきましては、平成30年度917件、令和元年度911件、令和2年度969件、令和3年度1,130件、令和4年度は11月末時点で786件となっております。

(略※)

## ○松本議員

これよりは一問一答形式でお願いします。

まず超過死等の状況について、死亡者数、火葬では昨年度は過去4年の中で、最も多く、その上で今年度はあと4ヶ月あり、例年の推移から救急出動、死亡者数、火葬件数がいずれも5年間で最多になるものと予測できます。本市でも昨年度、そして今年度も超過死が見られるということです。

そこでこの状況について、消防本部の救急搬送の詳細な分析をお聞かせください。

## ○福住議長

消防長

## ○消防長

救急搬送の詳細についてのご質問にお答えいたします。

令和3年度における救急搬送では傷病程度別で見ますと軽症者が全体の52.2%、年齢別で見ますと、65歳以上の高齢者が全体の51.8%で、いずれも半数以上を占めております。

この点につきましては、年々増加傾向であり、救急件数増加の一因となっておりますが、一方で、新型コロナウイルス感染拡大に伴う行動自粛要請により市民の活動が抑えられた結果、緩やかではありますが、令和元年度から令和3年度においては、救急搬送件数の減少につながったのではないかと分析しております。

令和4年度におきましては、新型コロナウイルス感染症の第6波及び第7波が大きく影響していることもございますけれども、それに加えて、行動制限が緩和されたことで、市民の活動が徐々に再開し、以前の生活が戻ってきたことも増加の要因の一つであると考えているところでございます。

## ○福住議長

松本議員。

○松本議員

続いて、この状況の医療担当部署の見解をお聞かせ下さい。

○福住議長

保健福祉部理事

○保健福祉部理事

救急搬送や死亡者数の増加の要因につきましては、高齢者数の増加の影響も一定考慮する必要があるとの認識はございますが、新型コロナウイルス感染症による死亡者数の速報値として発表されている数値も含め、現時点において要因として断定できる十分な情報ではないことから、今後、国や大阪府から提供される関連情報に注視して参りたいと考えております。

○福住議長

松本議員。

○松本議員

消防本部の分析と医療担当部署の見解については理解しました。

当然ながら新型コロナウイルス感染症が疑われるかもしれませんが、「新型コロナウイルス感染症以外の原因」で超過死亡が観察されると、指摘されています。

そこで、改めてワクチン接種状況の接種開始から現在までの接種率の推移をお聞かせ下さい。

○福住議長

保健福祉部理事

○保健福祉部理事

新型コロナワクチン接種につきましては、令和3年2月に医療従事者から接種が開始され、本市においては同年5月に集団接種や各医療機関での個別接種を開始いたしました。

これまでの間における12歳以上の接種状況は、2回目までの接種率が、昨年度末で約83%、今年度の11月末で約88%となっており、3回目の接種率は、昨年度末で約35%、今年度の11月末で約77%となっております。

また、9月末から接種開始となったオミクロン株対応ワクチンは、11月末時点で約38%となっており、希望される方へのワクチン接種が進んでいる状況でございます。

○福住議長

松本議員。

## ○松本議員

ワクチン接種状況については理解しました。

超過死の原因が新型コロナウイルス感染症ならば、ワクチン接種率を踏まえ、ワクチンの効果が見られなかったということになります。

ただ、HPで公開されている11月7日付けの「社会保障」という財務省資料でp7「新型コロナ重症化率等の推移」によるとオミクロン株BA.4.5の重症化率について、60歳未満0.01%、致死率0.004%、それと比較して季節性インフルエンザは重症化率0.03%、致死率0.01%で、オミクロン株は季節性インフルエンザよりも毒性が弱い実態となっており、今も超過死が続いていることを踏まえ、コロナが原因というのも適切ではありません。

そのような中で、名古屋大学名誉教授の小島氏は、コロナワクチン接種との相関を指摘されています。国は原因の調査・解明をすべきでしょう。

要因が不明な中、増加傾向が続くとすれば、救急体制はそれに耐えうるのか。市の見解をお聞かせ下さい。

## ○福住議長

消防長

## ○消防長

今後の救急体制についてのご質問にお答えいたします。

現在、新型コロナウイルス感染症の影響で、救急件数自体の増加はもとより、1件あたりの活動時間が増加しており、救急業務への負荷が増大しております。

救急要請が、本市が運用する救急車の台数をオーバーする場合も多くございまして、その場合は、吹田市を始め近隣市に出動応援していただいているのが現状でございます。

従前から、救急件数の減少に向けまして、市広報誌等への掲載、各種訓練指導や消防行事と、あらゆる機会をとらえ、市民の皆様に、救急車の適正利用を啓発し、併せて感染対策について正しく理解を深めていただくための啓発活動を実施しております。

また、医療機関や保健所等、関係機関と密に連携し、1件あたりの救急活動時間の短縮に努めているところでございます。

現在の救急体制を維持し、現状の課題を解決するためには、今後、救急隊の増隊も含めた、救急体制の強化についても、改めて点検し、適切な対応を検討しておかなければならないと考えております。

## ○福住議長

松本議員。

## ○松本議員

続いて斎場の対応はそれに耐えうるのかをお聞かせ下さい。

## ○福住議長

生活環境部長

## ○生活環境部長

斎場の利用状況につきましては、市内者の利用件数も増加しておりますが、それ以上に市外者の利用件数が増加しており、市内者の予約が取りづらくなる状況が見受けられました。

従来は、12月～3月の冬場に利用者が特に増加する傾向がございましたが、令和4年度は8月、9月の2カ月で市外者の利用が前年同期比約7倍にまで増加し、市内者の利用に支障をきたす状況となったことから、急遽、1日5枠ある火葬時間帯の内 2枠を市内者専用枠として運用するとともに、本定例会において 市外者の使用料を改定する条例改正を上程させていただいたところです。

今後も状況を注視しながら市内者の利用に支障をきたすことが無いよう努めて参ります。

## ○福住議長

松本議員。

## ○松本議員

消防本部、そして斎場ともに対応に取り組まれていることを理解しました。

この冬は特に厳しくなるでしょう。消防本部では救急体制の維持・強化、そして広域連携の強化、また斎場では適切な管理と市民枠等の柔軟な対応を要望致します。

(音声データ等より作成)

重要と思われる部分には強調を入れています。

※当該質問に関係のない他の質問項目の部分は省略しています。

<一般質問・項目一覧>

### 1 増加する救急出動数や火葬件数等と超過死等の状況について

#### 2 新型コロナワクチン接種

- (1) 副反応による健康被害と情報提供について
- (2) 制度開始から過去最多の健康被害認定と救済制度申請への支援について
- (3) 乳幼児接種等への希望申請制について
- 3 加速する少子化に対する子育て支援策強化の必要性について
- 4 子どもの居場所づくりの強化について
- 5 児童虐待防止での保護者ケアの重要性について
- 6 マスク着用の弊害と黙食等の小中学校の対応について

[想いを言葉に、言葉を形に、形から実践へ。]